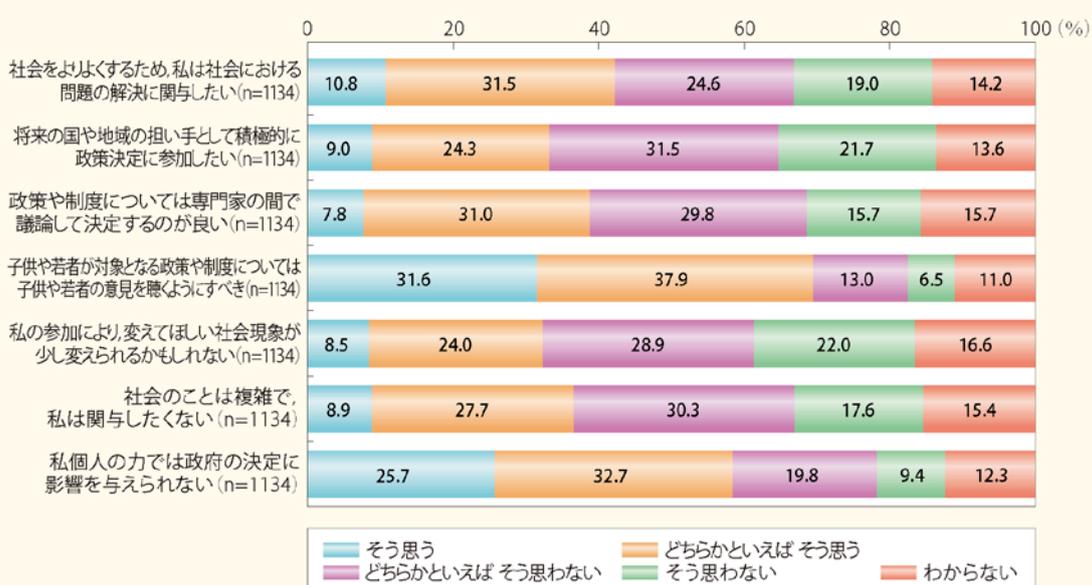


3 国家・社会関係

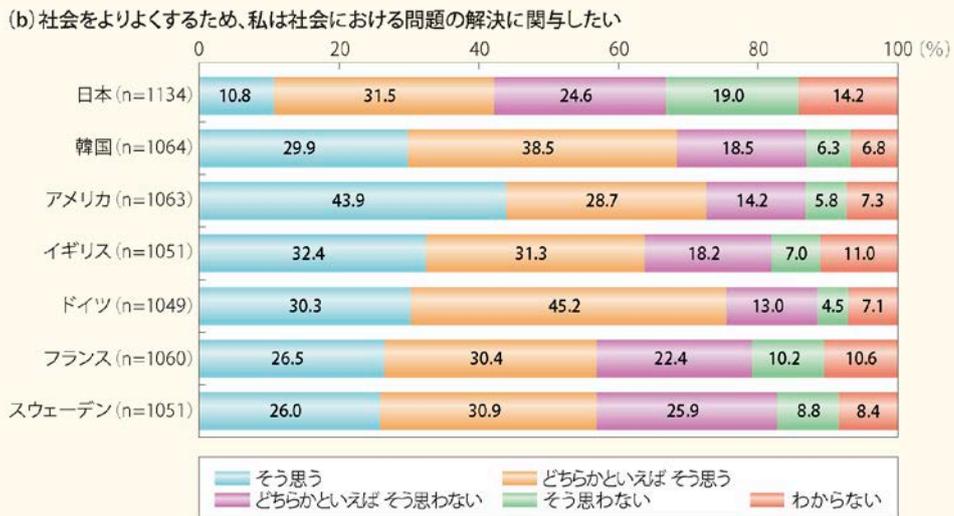
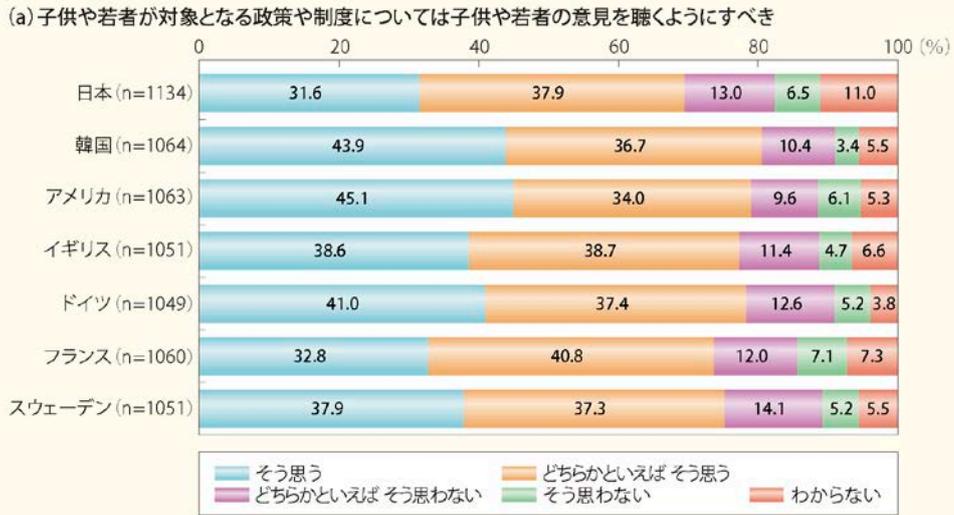
(1) 自国に対する意識

- 政策決定過程への関与についてみると、日本の若者で、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合が最も高かったのは、「子供や若者が対象の政策や制度は対象者に意見を聴くようにすべき」の69.5%であった。(図表7)
- 「子供や若者が対象となる政策や制度については子供や若者の意見を聴くようにすべき」及び「社会をよりよくするため、私は社会における問題の解決に関与したい」に「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合は、諸外国の若者と比べて最も低かった。(図表8)

図表7 政策決定過程への関与

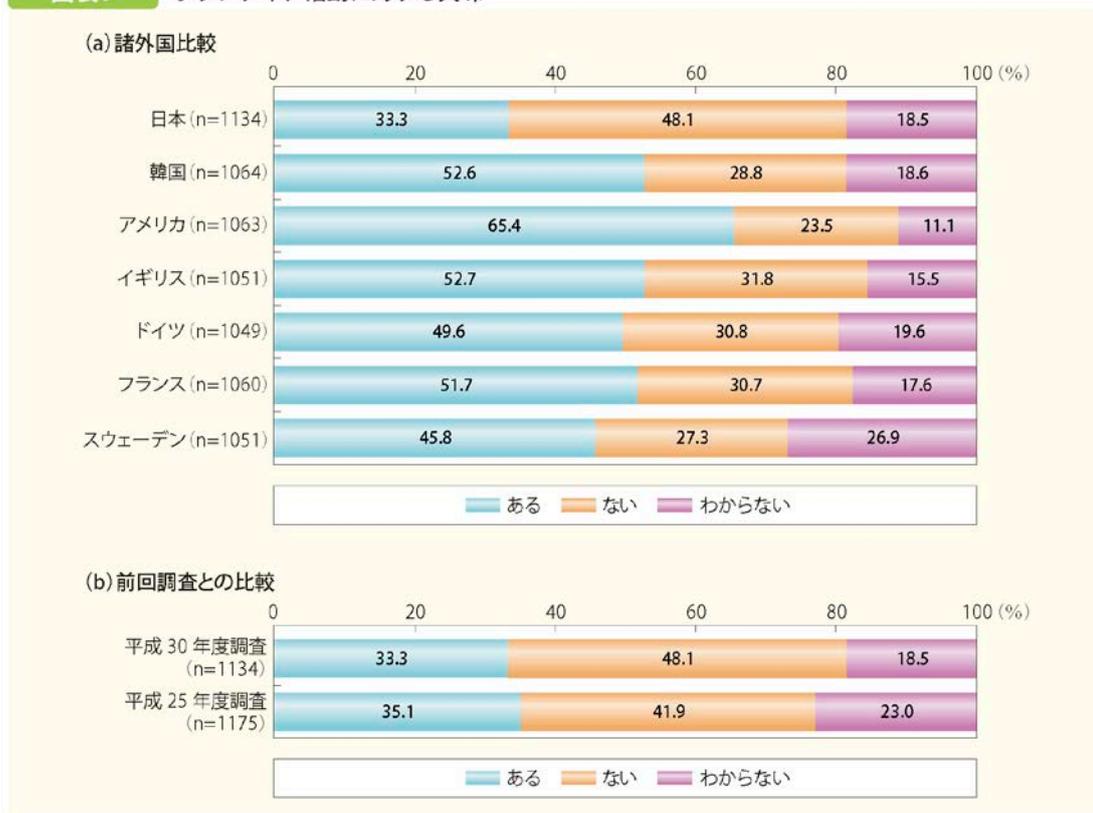


図表8 政策決定過程への関与（諸外国比較）



- ボランティア活動に対する興味²⁾についてみると、日本の若者で、「ボランティア活動に興味がありますか」に「ある」と答えた者の割合は33.3%であり、調査対象国の若者と比べて最も低く、「ない」と答えた者の割合は48.1%であり、調査対象国の若者と比べて最も高かった。
- 「ボランティア活動に興味がありますか」に「ない」と回答した日本の若者の割合は、平成25年度の調査時よりも6.2ポイント高かった。(図表9)
- このように、日本の若者は、諸外国の若者と比べて、ボランティア活動に興味がある者の割合は低く、ボランティア活動に興味がない者の割合は平成25年度の調査時よりもさらに上昇していた。

図表9 ボランティア活動に対する興味



²⁾ 「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」では、第3章 地域社会・ボランティア関係の質問として整理している。

- 日本の若者について、社会参加への意識とボランティア活動の経験との関係を見ると、ボランティア活動について「現在、活動している」又は「以前、したことがある」と回答した者ほど、ボランティア活動を「したことがない」と回答した者と比べて、「社会をよりよくするため、私は社会における問題の解決に関与したい」に「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合が高かった。(図表10)
- このように、日本の若者は、ボランティア活動をしているか経験したことがある者ほど社会参加への意識が高かった。

図表10 社会参加への意識とボランティア活動について

